



J-PEAKS活動の今をお届けします

TAYORI



NEWS LETTER

VOL. **19**
4 SEP, 2026



WORKSHOP REPORT

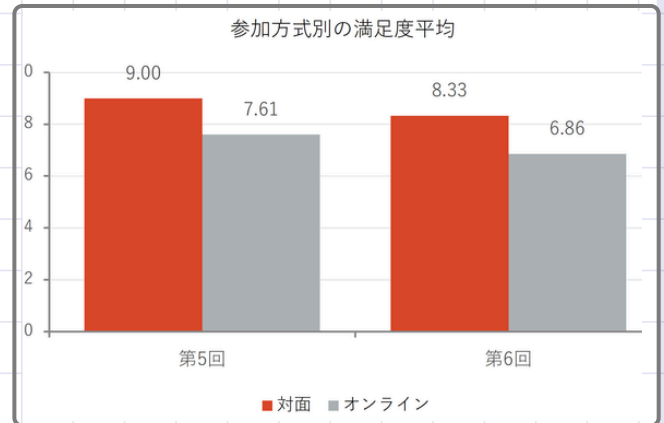
J-PEAKS勉強会を開催しました！

7月31日に第5回、第6回のJ-PEAKS勉強会を開催しました。第5回は北九州市立大学マネジメント研究科の松永裕己研究科長を特別講師としてお招きし、「ビジョン2040は、わたしの仕事に役立つのか？」と題しまして、大学のビジョンを自分事に落とし込む考え方について、ユーモアも交えてお話をいただきました。第6回は本学の中村豊理事に「Claudeを活用した業務改善ユースケース」についてご紹介をいただきました。

終了後のアンケート結果は、総合満足度（10点満点）は第5回が8.07、第6回が7.39という高い結果になりました。今回オンライン配信も行いましたが、対面参加者の方が満足度が高く、普段接することがない職種やキャンパスを超えた対話が引き続き評価されているようです。

アンケート分析の結果、様々な問題点も浮き彫りになりましたので、次回以降の勉強会では、以下の方向性を踏まえて、痒いところに手が届く勉強会を企画したいと思います。J-PEAKS勉強会を引き続きよろしくお願いします。

- ①自らPCを操作しての実践的なAI活用術
- ②研究活動支援施策紹介など教育職員への訴求
- ③ビジョンと職員の自分事を繋ぐ組織目標の立て方



第5回 参加者の声

「ビジョン2040は、わたしの仕事に役立つのか？」という出だしに、心の中で「いきなり攻めますね」と身構えました。ところが松永先生のお話は、ミッションは唱和して満足するものではなく使ってこそ、と一気に本題へ突入しました。スタバのコーヒーが高いのは、いい豆だからではなく「第三の空間の提案」のため。高くするためにいい豆を使っている、と発想の順序が逆で、正直驚きました。また松永先生の体験談として、東京ディズニーランドではトイレの場所を尋ねただけで夢と感動が返ってきたらしく、未経験の私は行く前に心の準備が要りそうです。モチベーショングラフ作成のワークでは、わが人生の谷（まあ、色々ありまして…）をベアの方に披露するという新種の研修を体験しました。『外側から、未来から考え、私と組織と社会をつなぐ』。まずは自分の担当業務を、この物差しで再考してみようと思いました。

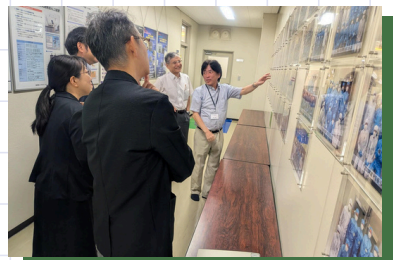
（安全衛生課 池松）



PARTNER

安浦サポーター来学！ J-PEAKS勉強会もご見学いただきました

7月31日にJ-PEAKS本学担当の安浦寛人サポーターに飯塚キャンパスにお越しいただきました。打ち合わせの後、マイクロ化総合技術センターを見学いただき、半導体製造に係る社会人教育の盛り上がりと受講生の多さに驚いておられました。その後、J-PEAKS勉強会もご見学いただきました。帰り際に勉強会の感想をお聞きました。



- ・松永研究科長の話は大学にとって大事で、ああいう話が聞けるのは教職員にとって良い環境。
- ・中村理事の取組も素晴らしい。才能のある人が転職しないように副業・兼業を大学はもっと認めるべき。
- ・こういった勉強会にたくさん参加している九工大職員は意識が高いと思う。副業・兼業の話の中で「小椋佳は第一勧業銀行の行員をしながら歌手だったんだから」と言われたのが妙に印象的でした。（勝手に紹介してすみません！）

田所雅之著「起業の科学～スタートアップサイエンス～」を読みました。起業を志す人、起業を支援する人にとって教科書のような良著です。勉強になりました。前書きに「私はアマゾンやフェイスブックのような「大成功するスタートアップ」を作ることはアートだと思っている。ただし、この本で示した基本的な型を身につければ「失敗しないスタートアップ」は高い確率で実現できる。これを私はサイエンスだと信じている」と書かれています。

日本の起業支援は結構サイエンティフィックで、予想可能な未来を目指します。ただ予測可能な未来は未来のうちのごく一部だと思います。先日のJ-PEAKS学長懇談会で東京藝術大学の日比野学長が「アートには、わからないことを引き受ける力がある」と発言されていました。失敗に寛容な環境を作り、わからない・予測できない未来にも飛び込んでいけるアーティストも育てる必要があるのかも知れません。

MIYAKE
リエデン
のつぶやき...

